

アナフィラキシー発症時の対応フロー(例)



- 原因食物が皮膚に付着
- 原因食物が眼に付着
- 原因食物を口から摂取



- 洗い流す
- 洗眼後、抗アレルギー薬、ステロイドを点眼する
- 口から出させたり、吐かせたりして口をすすぐ

発見者はすぐに安全な場所へ移動させる。すぐに複数の指導者(保護者)を現場に呼ぶ。

- 症状の確認(出現時間、具体的症状、経験した時期)
- 原因食品の確認(種類、量)
- 保護者への連絡
- チーム責任者への連絡

症状 1

- 部分的なじんましん、あかみ、かゆみ
- 軽い唇やまぶたの腫れ
- 鼻汁、鼻閉、単発の咳
- 軽い腹痛、単発の嘔吐
- なんとなく元気がない



対応 1

- 安静にし、最低1時間は嚴重に経過観察する
- 緊急時薬があれば内服する
- 対応人員を確保する
- エピベン※があれば用意する
- 必要に応じて、主治医に連絡し、指示を受ける

症状 2

- 広範囲のじんましん、あかみ、強いかゆみ
- 明らかな唇やまぶた、顔面全体の腫れ
- 時々繰り返す咳
- 明らかな腹痛、複数回の嘔吐・下痢
- 明らかに元気がない、立ってられない



対応 2

- 安静にし、最低1時間は嚴重に経過観察する
- 緊急時薬があれば内服する
- 対応人員を確保する
- エピベン※があれば用意する
- 必要に応じて、主治医に連絡し、指示を受ける

症状 3

- 飲み込みづらさ
- 強い咳込み、声がれ、ぜん鳴(ゼーゼー、ヒューヒュー)、呼吸困難
- 強い腹痛、繰り返す嘔吐・下痢
- 横になりたがる、ぐったり



対応 3

- 救急車で医療機関を受診する
- エピベン※を接種する
- 必要に応じて、蘇生術を実施する
- 緊急時薬があれば内服する

症状 4

- 声枯れ、声が出ない、喉が締め付けられる
- 血圧低下、意識レベル低下~消失、失禁



対応 4

- 救急車で医療機関を受診する
- エピベン※を接種する
- 必要に応じて、蘇生術を実施する
- 緊急時薬があれば内服する

急  
激

救急車要請後の対応

※エピペンの使用  
 呼吸困難等の症状が出てきたらすぐに、本人(医師、救急救命士)が使用すべきである。ただし、緊急時、本人が使用できない場合、医療関係者以外が使用しても法律違反にはならない。

~MEMO~  
 ※ エピベンとは、アナフィラキシーを発症した人に対する緊急注射用キットのことをいう。成分はアドレナリンで、気管支を広げ、心臓の機能を増強して血圧を上昇させてショック症状を改善する作用がある。アナフィラキシーの出現リスクの高い患者は、医師によりエピペンを処方され、保有することができる。(指導者が用意するものではない。)  
 エピペンの先端を太ももの前外側に強く押し付けるだけで、薬液が筋肉内に注射される簡易な仕組みになっている。